

ノーベル賞受賞者の論文分析について

平成28年11月29日
科学技術・学術政策局
科学技術・学術戦略官(国際担当)付

近年の日本出身のノーベル賞受賞者数は増加しており、特に自然科学系のノーベル賞受賞者数は米国に次いで2番目に多くなっている。

グラフ1: 国別のノーベル賞数の推移

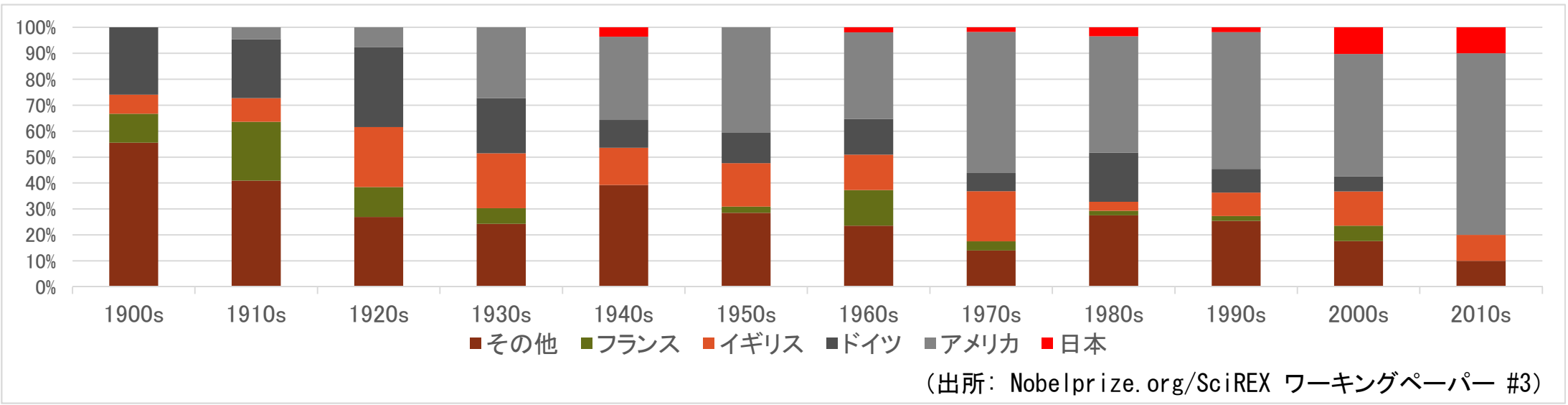


表1: 国別のノーベル賞(自然科学系)受賞者数

| | 1901 - 1990年 | 1991年 - 2000年 | 2001年 - 2016年 | 合計 |
|------|--------------|---------------|---------------|-----|
| 米国 | 156 | 39 | 55 | 250 |
| 英国 | 65 | 3 | 14 | 82 |
| ドイツ | 58 | 5 | 6 | 69 |
| フランス | 22 | 3 | 7 | 32 |
| 日本 | 5 | 1 | 16 | 22 |

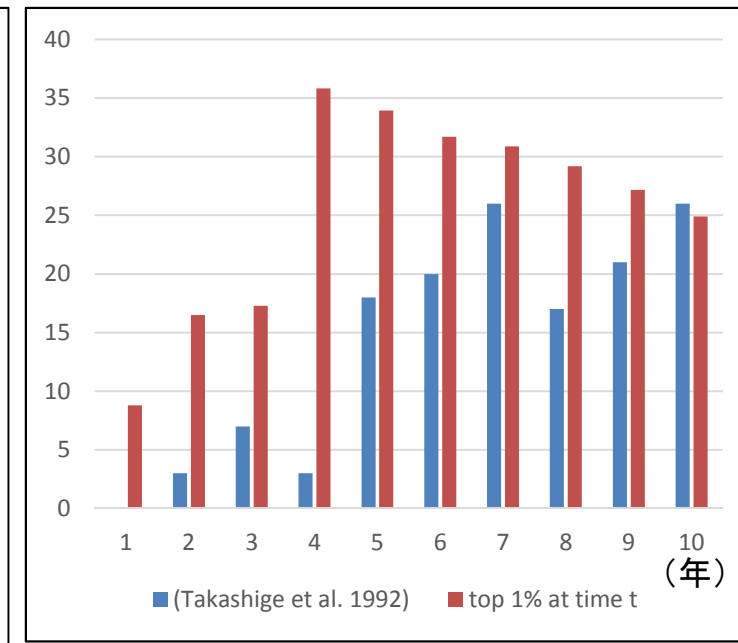
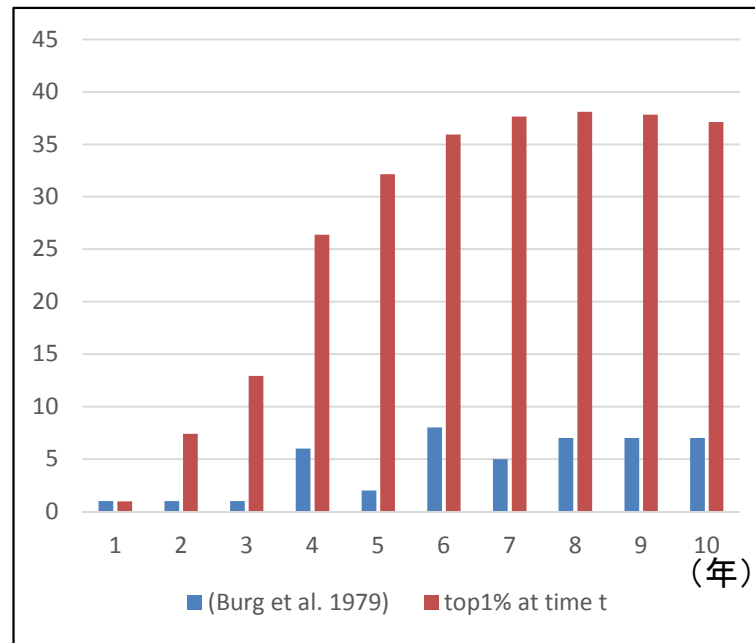
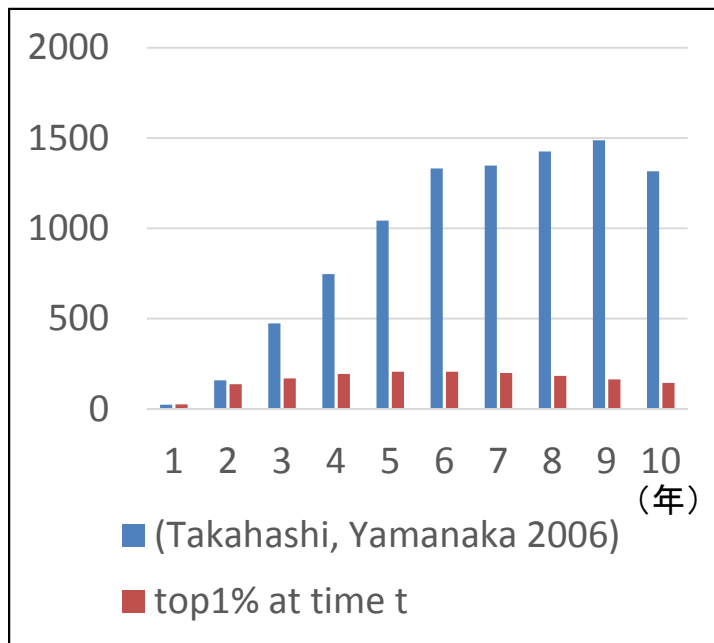
(注1) ノーベル財団の発表等に基づき、文部科学省において、試行的に取りまとめている。
 (注2) 日本人受賞者のうち、2008年物理学賞受賞の南部陽一郎博士、2014年物理学賞受賞の中村修二博士は、米国籍で受賞している。
 (注3) 日本人以外は、ノーベル財団が発表している受賞時の国籍(二重国籍者は出生国)でカウントし、それらが不明な場合等は、受賞時の主な活動拠点国でカウントしている。
 (文科省作成)

ノーベル賞受賞に至る主要な研究論文は、論文発表から10年後までの期間において、被引用数が該当分野におけるトップ1%被引用論文に含まれるものが多い。

山中伸弥教授

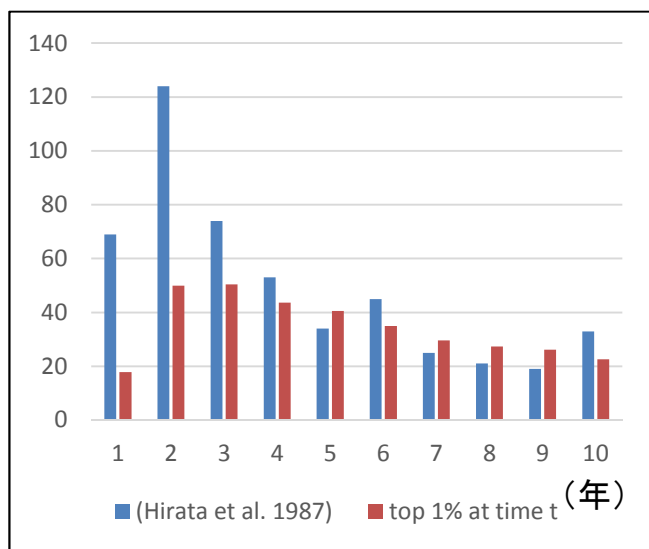
大村智教授

大隅良典教授

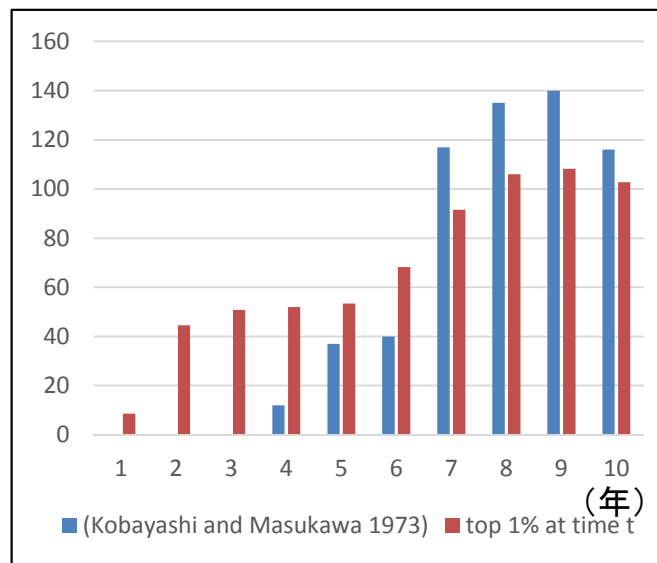


縦軸: 被引用数
横軸: ノーベル賞受賞に至る主要な研究論文発表の経過年数 = {1...10}

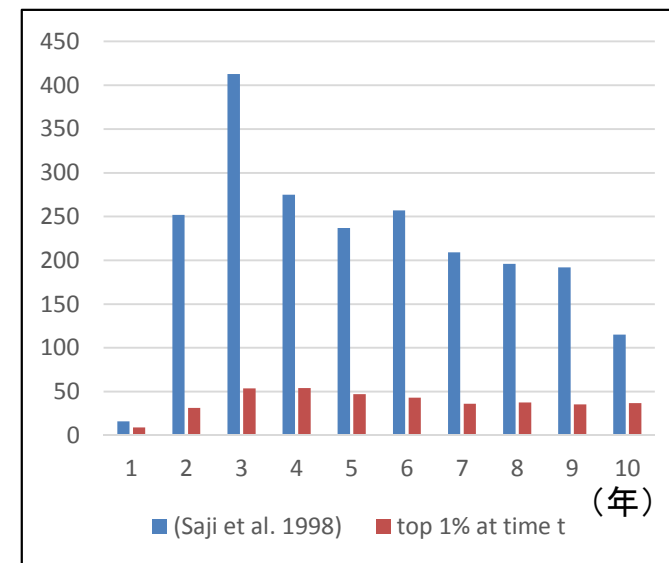
小柴昌俊教授



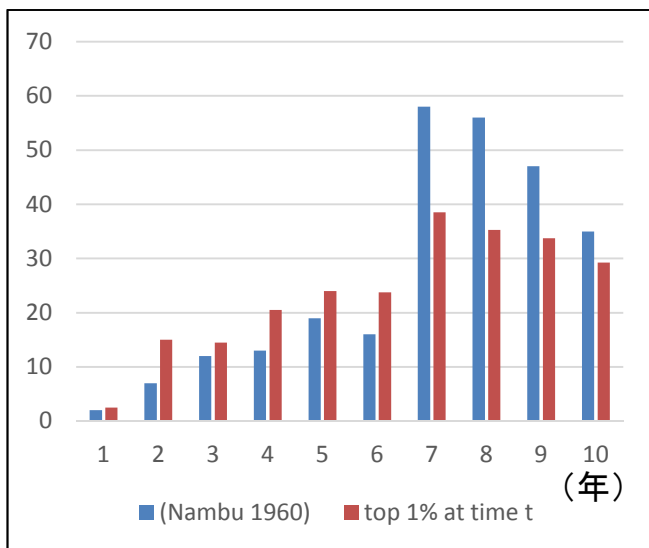
小林誠&益川敏英教授



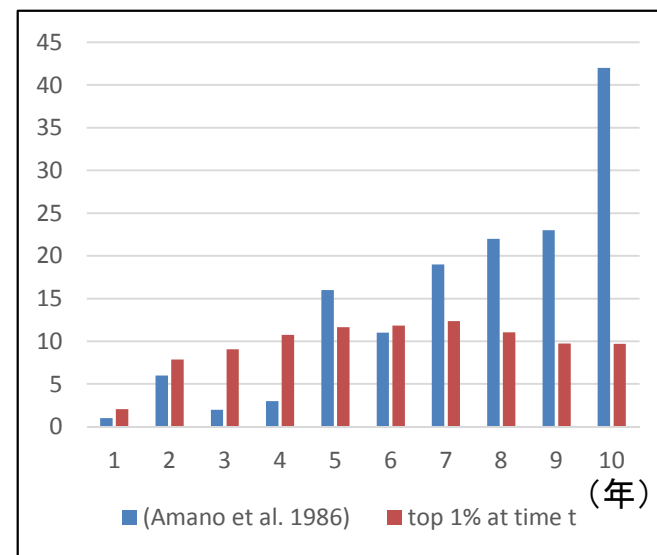
梶田隆章教授



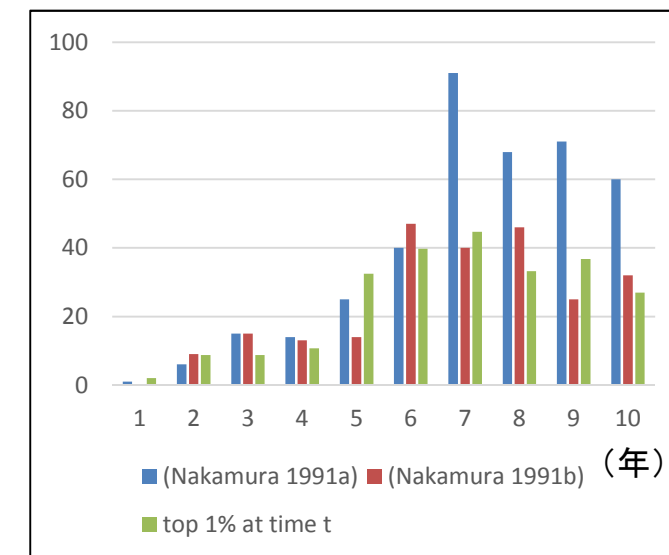
南部陽一郎教授



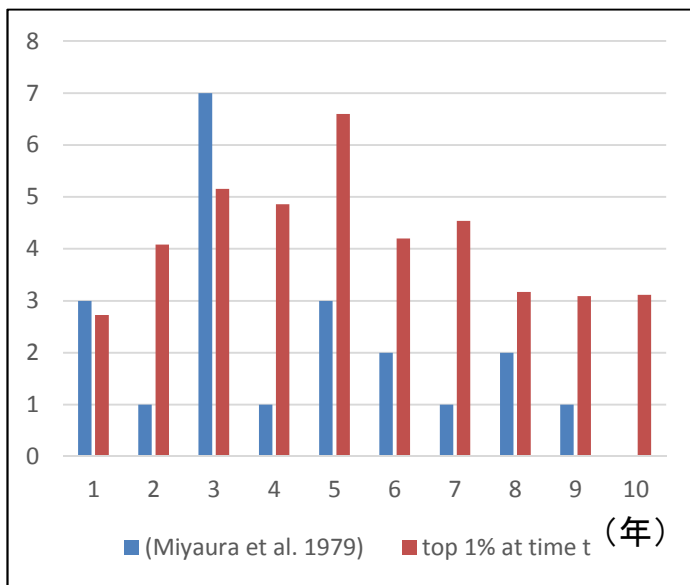
天野浩&赤崎勇教授



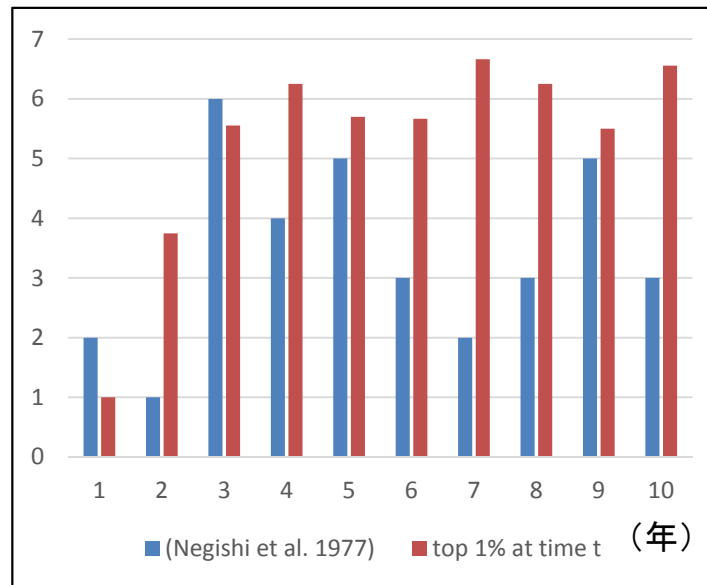
中村修二教授



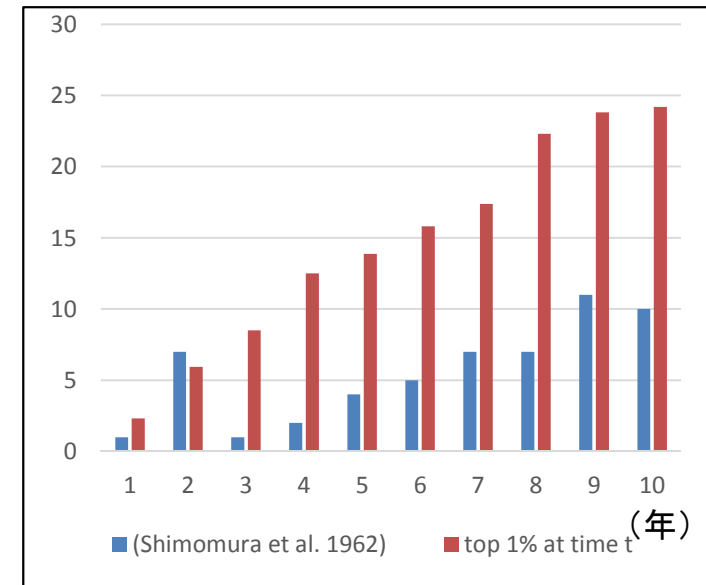
鈴木章教授



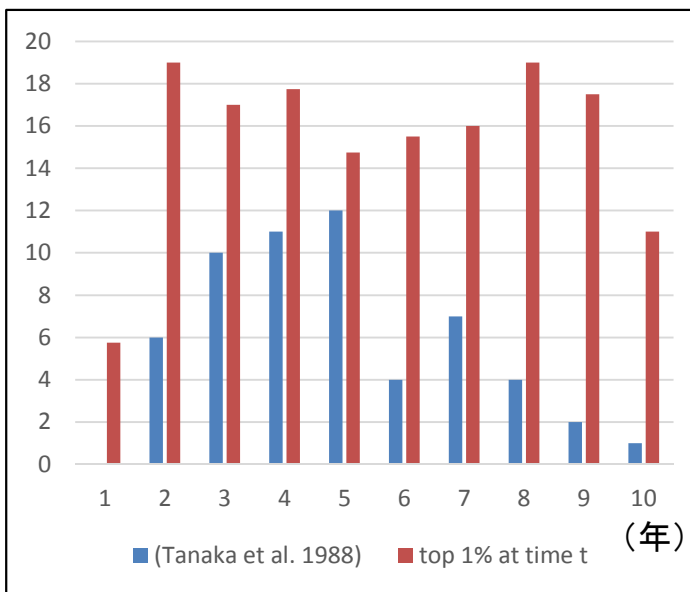
根岸英一教授



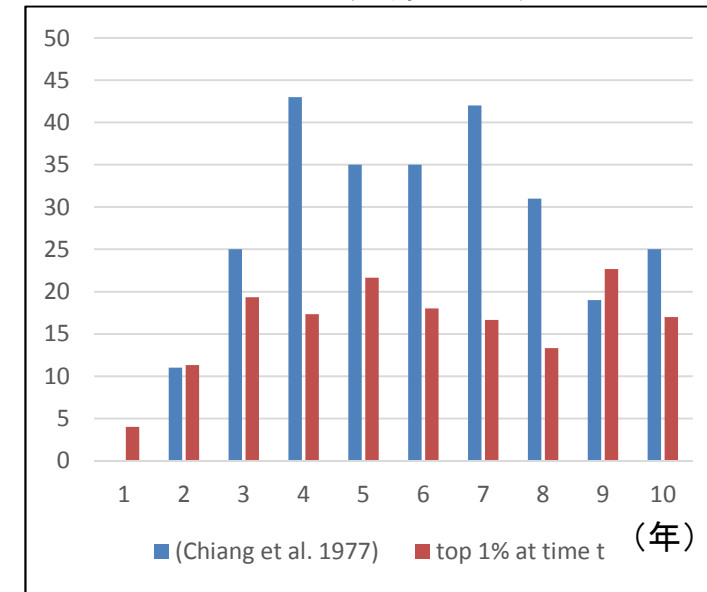
下村脩教授



田中耕一氏



白川英樹教授



野依良治教授

